

2023/12/25 (Mon.) 第145号

日本医師連盟ニュース

日本医師連盟ニュース
 - 発行所 -
 日本医師連盟
 東京都文京区本駒込5-19-2
 小林ビルデンス 603号室
 〒113-0021
 TEL: 03-3947-7815
 FAX: 03-3947-2662
 E-mail: info01@nichiiiren.jp

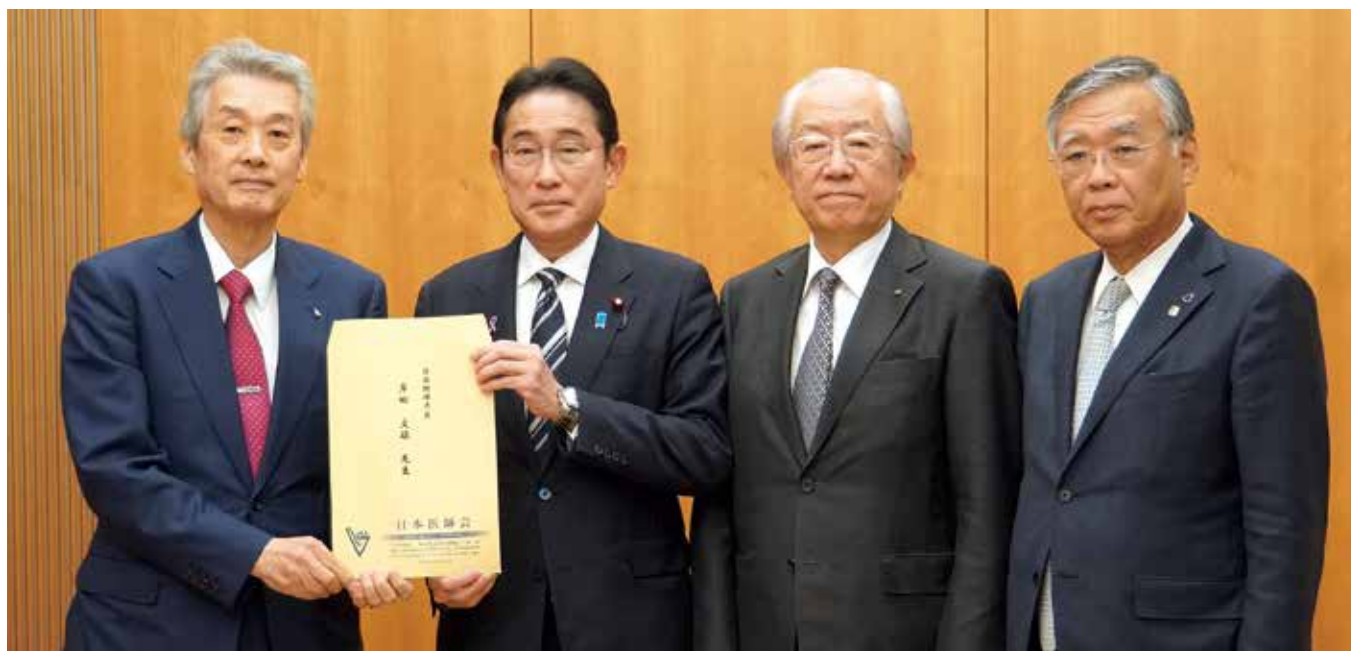
http://www.nichiiren.jp/

定価 1年400円 (但し日医連負担金を含む)

令和6年度診療報酬改定 本体プラス0.88%で決着

全国の医師連盟の結束でプラス改定を勝ち取る

—診療報酬本体部分 プラス0.88%が実現—



11月15日 岸田内閣総理大臣を訪問
 左から松本会長、岸田総理、高橋日歯会長、山本日薬会長

今回の診療報酬改定に当たり、財務省は、社会保障関係費の伸びを抑えると同時に、マイナス改定を求めてきたなかで、十二月に入り、日本医師会松本

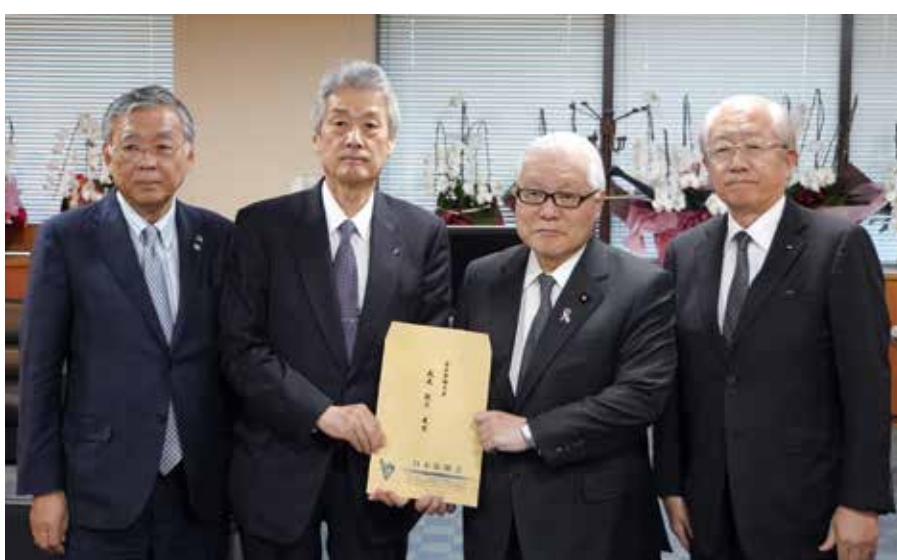
非常に厳しい国家財政のなか、政府は12月20日、令和6年度予算編成の焦点となっていた診療報酬改定について、本体部分0・88%の引き上げを決定した。

吉郎会長(日本医師連盟委員長)は、日本歯科医師会高橋英登会長、日本薬剤師会山本信夫会長と共に、武見敬三厚生労働大臣、また、自民党麻生太郎副総裁、

日本医師会松本吉郎会長は十一月十四日、高橋英登日本歯科医師会長、山本信夫日本薬剤師会長と共に厚生労働省を訪れ、武見敬三厚生労働大臣に要望書を手交し、令和6年度診療報酬

改定に向け、原資となる適切な財源の確保を求めた。松本会長は、「(一)今年の春闘では平均賃上げ率三・五八%、人事院勧告では三・三%の上昇が示されている、(二)岸田文雄

の原資を確保する重要性に一定の理解を示すとともに、過去三年間のコロナ対応における三師会の貢献について国民に理解を求め、賃上げの必要性を言及。厚生省として協力していく意向を示した。



令和6年度診療報酬改定に向け、武見厚労大臣に要望書を提出
 左から山本日薬会長、松本会長、武見大臣、高橋日歯会長

松本会長は11月15日、高橋日本歯科医師会長、山本日本薬剤師会長と共に総理官邸を訪れ、岸田文雄内閣総理大臣に要望書「令和6年度診療報酬改定に向けて」を手交。医科および歯科医療機関、薬局の厳しい経営状況に理解を求めるとともに、令和6年度診療報酬改定に向け、適切な財源の確保を要望した。

内閣総理大臣も「賃上げ」を重要政策と位置付けている。ここに触れたうえで、「医科および歯科医療機関、薬局等は公定価格で運営されているため、現在の物価上昇分等を価格に転嫁することとできず、賃上げと物価高騰、さらには日進月歩する医療技術革新には恒常的な対応が必要」と強調。武見厚労大臣は、「医療分野における人手不足は深刻な影響を及ぼす」とし、賃上げ

**岸田総理に
令和6年度診療報酬改定に向け、
適切な財源の確保を要望**

長をはじめ関係国会議員に、診療報酬本体のプラス改定の必要性を地道に説明してきた。また、日本の社会保障政策、医療政策に関心の高い自民党国会議員から構成される議員連盟「国民医療を守る議員の会」総会(会長：加藤勝信衆議院議員)での議論、意見交換を通じて、多くの自民党国会議員からの理解、賛同を得て、決議が取りまとめられ、加藤会長から岸田文雄内閣総理大臣に提出された(関連記事2面)。

自民党議員連盟「国民医療を守る議員の会」総会開催

30年ぶりの物価高騰・賃金上昇に負けない プラス改定を求める提言をまとめる

自民党所属国会議員による議員連盟「国民医療を守る議員の会」(会長・加藤勝信衆議院議員)の総会が、十二月五日に参議院議員会館において開催された。議員本人百五十名、代理百二十八名、また、日本医師会(連盟)松本吉郎会長(委員長)をはじめ日医(日医連)役員などが出席した。また、都道府県医師会からも多数参加した。



12月5日「国民医療を守る議員の会」総会にて挨拶をする松本会長

総会では、まず、同会の加藤会長から挨拶が行われ、「今、賃上げをしようと岸田文雄内閣総理大臣が自ら旗を振っておられる。そのためには原資が必要になる」と述べるとともに、「医療では、診療報酬改定(引き上げ)がなければそれはかなわない」と指摘。

さらに、物価高騰の影響や医療界から人材が流出していること等に触れたうえで、「物価高騰、賃金の上昇への対応はもとより、人材確保、そして安定的な医療サービスの提供、これらができる診療報酬改定を実現していきたい」と決意を述べた。

続いて挨拶した松本会長は、「物価高騰、賃金上昇のなかで、安全かつ質の高い医療を安定的・長期的に提供するために、医療・介護従事者への賃上げを行い、人材を確保することが不可欠である。それには診療報酬の思い切ったプラス改定しかない」と述べ、医療機関における賃上げの原資は診療報酬しかないことを強調した。具体的には、(一)令和六年春闘の先鞭となる賃上げ

の實現、(二)賃上げ・物価高騰に対応した改定率の確保、(三)賃上げ・物価高騰の財源は歳出の目安とは別枠、(四)診療所の経営状況—について日本医師会の考え方を説明。診療報酬の大幅なプラス改定に向け、強力な支援を要請した。

その後、議員の会として取りまとめる予定の決議文について議論が行われ、プラス改定に向けて、三十人以上の議員から熱い意見が寄せられた。意見交換のなかでは、医療従事者の賃上げに対応できる診療報酬改定の必要性を強調する意見が続出し、加筆・修正に関して加藤会長に一任することで了承された。

なお、同決議は十二月八日に加藤会長から、岸田総理に提出された。

日本医師連盟は、十月十七日に執行委員会を開催した。釜淵敏常任執行委員の司会により開会、松本吉郎委員長が議事を進めた。はじめに、挨拶に立った松本委員長は、「先の第二次岸田第二次改造内閣において、武見敬三、自見はなこ両参議院議員がそれぞれ厚生労働大臣、内閣府特命担当大臣として初入

成を控えて、この一カ月、一カ月半が正念場となる。日医連から各都道府県医師連盟、郡市区医師連盟に關係資料とともに、地元国会議員への強力な働きかけをお願いしている。全国一律となった活動展開により、安定した医療提供体制を中長期的に担保し得る財源確保の實現が、最大の課題である。全力を傾注して参る所存なので、いっそうのご協力をお願い申し上げます。

続いて、議事に入り、次第に従い、まず、「令和五年度日本医師連盟交付金」について、茂松茂人副委員長から「来年一月に令和七年七月の次期参議院比例代表選挙の組織内候補を選出し、これに伴う全国的な活動展開等を踏まえ、また現下の日医連財政状況を勘案し、令和五年度の交付金について前年度と同様、負担金の三〇%の交付にて実施したい」と提案され、承認された。

次に「日本医師連盟役員人事」について、松本委員長から「日医の定款改正により、常任理事が四名増員し、会長、副会長、常任理事、理事の総数が三十三名となった。『公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律』の規定により、常任執行委員二名の増員が可能となった。日医連規約の規定により、現参与の中から長島公之、江澤和彦両参与を常任執行委員に委嘱すること、また、今回新たに日医常任執行委員に就任した四名、坂本泰三、濱口欣也、菅本洋一、佐原博之各先生と、厚生労働副大臣を退任された羽生田俊参議院議員を参与に委嘱すること」が提案され、委嘱すること

当日、執行委員会に先立ち、日医連常任執行委員会を開催した。議事「令和五年度日本医師連盟交付金について」「日本医師連盟役員人事について」それぞれ審議を行い、承認された。承認された議事は、その後開催された執行委員会で提案し、審議が行われ、承認された。なお、八月二十二日の常任執行委員会でも確認された「次期参議院比例代表候補者公募スケジュール」についても、あらためて確認が行われた。

松本日医連委員長挨拶



執行委員会にて挨拶する松本委員長

閣された。私どもが強力に支援してきたお二人が大臣となられ、現場の声を政策に反映し、真に国民のための政治が実践されることを心から期待する。令和六年度のトリプル改定のための財源確保に向けた攻防は、年末の予算編成を控えて、この一カ月、一カ月半が正念場となる。日医連から各都道府県医師連盟、郡市区医師連盟に關係資料とともに、地元国会議員への強力な働きかけをお願いしている。全国一律となった活動展開により、安定した医療提供体制を中長期的に担保し得る財源確保の實現が、最大の課題である。全力を傾注して参る所存なので、いっそうのご協力をお願い申し上げます。

日医連常任執行委員会

当日、執行委員会に先立ち、日医連常任執行委員会を開催した。議事「令和五年度日本医師連盟交付金について」「日本医師連盟役員人事について」それぞれ審議を行い、承認された。承認された議事は、その後開催された執行委員会で提案し、審議が行われ、承認された。なお、八月二十二日の常任執行委員会でも確認された「次期参議院比例代表候補者公募スケジュール」についても、あらためて確認が行われた。

日医連 執行委員会を開催
令和5年度交付金、
日本医師連盟役員人事を審議、
次期参議院比例代表候補者
公募スケジュールを確認

日本医師連盟は、令和5年10月17日に対面により、常任執行委員会、執行委員会を開催した。「令和五年度日医連交付金」「日医連役員人事」を審議し、「次期参議院比例代表候補者公募スケジュール」について確認した。

続いて、議事に入り、次第に従い、まず、「令和五年度日本医師連盟交付金」について、茂松茂人副委員長から「来年一月に令和七年七月の次期参議院比例代表選挙の組織内候補を選出し、これに伴う全国的な活動展開等を踏まえ、また現下の日医連財政状況を勘案し、令和五年度の交付金について前年度と同様、負担金の三〇%の交付にて実施したい」と提案され、承認された。

次に「日本医師連盟役員人事」について、松本委員長から「日医の定款改正により、常任理事が四名増員し、会長、副会長、常任理事、理事の総数が三十三名となった。『公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律』の規定により、常任執行委員二名の増員が可能となった。日医連規約の規定により、現参与の中から長島公之、江澤和彦両参与を常任執行委員に委嘱すること、また、今回新たに日医常任執行委員に就任した四名、坂本泰三、濱口欣也、菅本洋一、佐原博之各先生と、厚生労働副大臣を退任された羽生田俊参議院議員を参与に委嘱すること」が提案され、委嘱すること



執行委員会会場の様子

自見先生からご寄稿いただきました

内閣府特命担当大臣
参議院議員 自見はなこ

活動フォトレポート



11月24日 沖縄県市長会より要請



11月13日 第39回沖縄振興審議会



12月1日 内閣府と北方領土隣接地域振興対策根室管内市町連絡協議会が主催の「2023北方領土展 in Tokyo」を視察



12月1日 令和5年度 北方領土返還要求中央アピール行動において、石垣雅敏根室市長らの表敬訪問に松野博一内閣官房長官(当時)とともに対応



11月29日 第36回消費者教育推進会議



10月13日 日本医師会 釜瀧敏常任理事、城守闘斗常任理事より、食料費・光熱費等の物価高騰に対する財政支援に関する要望



10月27日 衆議院予算委員会にて田村憲久議員より食療療養費について質問を受ける(1)



10月27日 衆議院予算委員会にて田村憲久議員より食療療養費について質問を受ける(2)



10月19日 第2回国と地方の協議の場(令和5年度)



9月7日 内閣府大臣政務官時代に日本先天代謝異常学会 中村公俊理事長らより、新生児マススクリーニング検査対象疾患拡充について要望し、実現



11月13日 第7回食品ロス削減推進会議



11月10日 「第10回ディスカバー農山漁村の宝」有識者懇談会



11月18日 熊本県医療的ケア児支援センター等視察(熊本県出張1)



11月18日 社会医療法人愛育会福田病院等視察(熊本県出張2)



10月26日 福岡県議会ワンヘルス・地方分権等調査特別委員会 秋田章二委員長、藏内勇夫委員らより表敬訪問



11月30日 第3回地方創生SDGs金融表彰授与式にて自治体と金融機関の好取組の表彰(静岡県富士市 富士市SDGs応援団他、愛知県豊田市 豊田信用金庫他、秋田県由利本荘市(株)北都銀行、茨城県石岡市(株)常陽銀行



11月30日 2025年日本国際博覧会「大阪来てな!万博開催500日前イベント」に出席



11月14、15日 2025年日本国際博覧会「国際参加者会議2023年秋(IPM 2023 Autumn)」にてビデオメッセージでご挨拶

羽生田先生からのご寄稿いただきました

自民党厚生労働部会長代理
参議院議員

羽生田 たかし 活動報告



介護業界、そして議員も一丸となり懸命に闘っていました。この報酬改定に先立ち、財務省の財政制度等審議会が十一月二十日に「令和六年度予算の編成等に関する建議」を立、そのなかで新型コロナウイルスの位置づけが五類感染症に変更され経済活動が活性化されたとしたうえで「国民負担率の上昇に歯止めをかけることが必要」「診療報酬本体をマ

インラス改定とすることが適当」「診療所の報酬単価については、経常利益率が全産業やサービス産業（経常利益率三・一〜三・四％）と比較して同程度となるよう、五・五％程度引き下げる」「利益剰余金の活用、強化される賃上げ税制の活用、その他賃上げ実績に応じた報酬上の加算措置を検討すべき」等医療に希望が持たなくなるような、本当に腹立たしきを通り越して愕然とするほど酷い言葉が羅列されました。

私たちが医療者は、新型コロナウイルス患者の治療をはじめ、ワクチン接種に発熱外来、加えて通常の患者診療など、己の生活をかえりみず懸命に最前線で闘い、未だ医療機関の中では感染対策な

ど大変な負担と努力を強いられています。懸命な感染対策をとっている医療機関を一步外に出れば、経済優先の社会であり、まるで別世界に来たかのような感覚さえ覚えるほど、医療者はまだコロナをはじめインフルエenzaなど感染症との闘いの最中で、マスクを外せない生活を余儀なくされているのです。

医療者は我慢に我慢を重ねた生活を強いられており、癒える間もなく現場に立ち続けております。このままでは地域医療は壊れてしまいます。

患者ひいては国民に寄り添った医療・介護・福祉の提供が過不足なく行える財源は当然必要であり、そのためには医療の提供側へも十分な手当が必要であります。

政府に、そして安直といわざるを得ない愚かな財政論者たちに伝えるべきこととして、専従職員を確保し、医療を提供する側と受ける側の信頼関係を確立することが地域医療を守ることにつながります。過不足なき財源の確保が必須であり、医療を壊さないという国の覚悟が必要であります。そしてなにより医療者も人間であり国民であります。

懸命に頑張る人、医療現場で必死に患者と向かい合う人を頑張ったと称え、報いることも必要であります。



国民医療を守るための総決起大会

平素よりの私の政治活動にご理解とご支援をいただいておりますことに、心より御礼申し上げます。

過日、診療報酬をはじめとする、医療・介護・福祉のトリプル改定の改定率が決定いたしました。

要であります。確かにコロナで医療費は多くかかったかもしれないが、それは国が想定した数より多くの患者が出たためであり、医療者が懸命にコロナと闘った証であります。

空床があるのに患者が入院できなかったのは、それは国が想定した症状より重症者が多く、対応する医療者が足りず患者が受け入れられなかったからではないでしょうか。

経常利益が他産業より高いのは、国の想定よりコロナ患者が多くかつ重症だったため、医療者が昼夜を問わず多くの患者に対応し、連日の過去最高といわれる数の感染者に対応し、私生活を投げ出して多くの時間を治療に充てた結果ではないでしょうか。

なぜ、ここまで頑張って懸命に支えてきた医療界を、安易な財政論者に、コロナの際に無責任な発言を繰り返した評論家によって踏みつけられる必要はないのでしょうか。

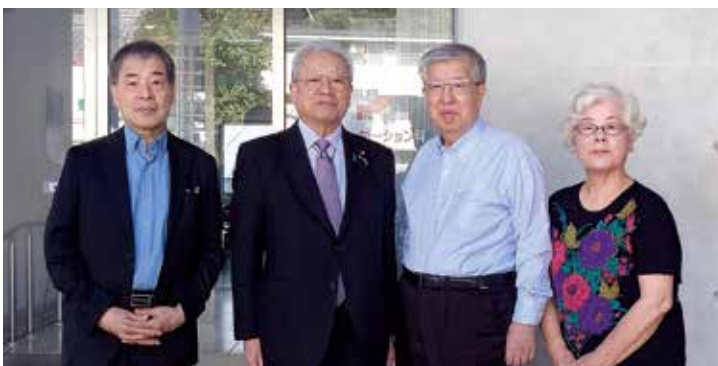
この国はいつからプライマリバランス黒字化のために、医療者を痛めつけ、患者負担を増やした、安心安全に暮らせる医療者が国民の生命と健康を脅かす発言をする、そんな国になったのでしょうか。これが日本国の求める医療の姿でしょうか。

ぜひとも皆さまの声を届かせたい。この国の現状に合った、安心安全に暮らせる医療・介護の環境を担保し、健康で人生を謳歌し寿命を全うでき、この国に生まれて良かったと思える社会を築かねばなりません。そこが国民のための社会保障です。

私も、国政に送っていただきたい責任と使命を果たすべく、しっかりと努力し、取り組んで参ります。



十四大都市医師会連絡協議会にて挨拶



徳島県医師会齋藤義郎会長・森俊明副会長と



熊本県医師会福田桐会長・長崎県医師会森崎正幸会長と



有床診療所の活性化を目指す議員連盟



北海道医師会創立76周年記念祝賀会へ



高知県医師会野並誠二会長を訪問